

「今後の県立高校に関する意見交換会（第1回）」記録要旨【釜石・遠野ブロック】

平成 27 年 6 月 16 日（火）

大槌町中央公民館 大会議室

【大槌町 参加者】

- ・大槌町は被災地としていまだ大変な状況にあり、その中で、高校再編を検討するという将来の見通しが明るいととは言えない話題はとても残念だ。
- ・地域の活性化のためには、高校の役割が大きい。高校だけでこれからのことを考えることは大変だと思う。地域と一体となった教育の在り方を検討することが大切である。
- ・部活動へのコーチ派遣とそのための財政的な支援等の方法もあると思う。大槌町ではこれまで、高校に関わる地域の姿があまり見られなかった。若者を地域に定着させるために、行政・地域が一体となった行動が必要だと思う。地域を支える力となる小規模校の存続をお願いしたい。

【 県教委 】

- ・小中学校の義務教育と県立高校の設置者は違うが、今後の県立高校を考えて行く場合、地域と市町村が一緒になって知恵を出していかなければならないと考えている。何か具体的なアイデアがあればお聞かせ願いたい。

【陸前高田市 参加者】

- ・高田高校の新校舎建設には感謝している。高校が地元にあることは、地域の活性化につながる。
- ・10 数年前になるが仕事の関係で、静岡県の小規模校を訪問したことがある。小規模ではあるが、副校長が 2 人配置され様々なコースを設定する等の工夫が見られた。
- ・今後策定される再編計画で、大槌高校や地区は違うが近くの山田高校がどうなるか心配している。また、専門学科高校についても、それぞれに学校の特長がある。これまでも統合により釜石工業高校等、単独の専門学科高校がなくなっている。これ以上統合が進むのはつらい。釜石・遠野ブロックについては、現在の配置のままでお願いしたい。
- ・1 学級定員について、40 人ではなく地域の現状を見て考えていただきたい。
- ・高校生が通学で利用するバスの運行について、満員のため乗車できなかったという話も聞く。通勤する一般客優先ということもあると思うが、そのような話を聞き心を痛めている。

【 県教委 】

- ・バス利用できない生徒がいるといった話であるが、もし分かればどの地域でのことか教えていただきたい。

【陸前高田市 参加者】

- ・最近あまり聞かなくなったが、山田町や大槌町、釜石市の鶴住居であったと聞いている。高校生が合宿に参加するため、多くの荷物を持って乗車しようとしたら、乗車を拒否されたという話もあった。

【 県教委 】

- ・山田町については宮古ブロックになるが、雨が降ったとき等、乗車できなかったことがあるということは何っているところ。
- ・学級定員について、募集定員を基準とし、現在の高校標準法では 1 学級定員は 40 人となっている。

（次頁に続く）

各校では、少人数指導、習熟度別学習により、40人以下のクラスを編制し授業を行う等の工夫をしている。また、沿岸・県北地域では、実際の1学級の人数が平均で31.9人という状況にある。

- ・教職員の配置について、小中学校の義務教育は児童・生徒数が基準とされるが、高校の場合、募集定員を基準として、高校標準法における1学級40人を基本に、国からの財政措置がなされている。40人より募集定員を少なくすると、国からの財政措置による教員の配置人数が減ることを考慮しなければならない。普通科で3学級規模の高校では、高校標準法により教員を26人配置できるが、仮に1学級35人にした場合、配置できる教員は22人となる。そのため生徒へのきめ細やかな指導や教育課程の編成が難しくなることも考えられる。今後は、他県の状況も参考としながら、35人にした場合の財源の裏付け等、具体的なシミュレーションしながら検討していきたい。また、国への要望も引き続き行っていきたい。県としては教育に予算をかけており、文部科学省の調査によると、全日制生徒1人あたりの予算は、岩手県は148万7千円で、島根県に続く全国2位となっていることにも御理解をいただきたい。

【遠野市 参加者】

- ・資料No.3に示されたブロック間の交流について、盛岡ブロックや中部ブロックへの釜石・遠野ブロックからの転出数が示されているが、釜石市と遠野市、それぞれの人数が分かれば教えていただきたい。

【 県教委 】

- ・市町村別の人数については資料の持ち合わせがなく、ブロック全体の人数しかわからない。

【遠野市 参加者】

- ・釜石・遠野ブロックから、かなりの生徒が転出していることから、(盛岡へ35.7人 中部に44.7人)何か原因があるのかと思い質問したところである。

【 県教委 】

- ・背景の一つとしては、地区外の私立高校への進学が考えられる。

【釜石市 参加者】

- ・前計画では、2学級に満たない場合に統合等の規定があった。その規定は現在もあるのか。もし、今は規定がないのであれば、いつ頃策定するのか。その方向性も含め伺いたい。

【 県教委 】

- ・平成21年までの前計画では、2学級校(定員80人)が、1学級定員の半分(20人)を超える欠員(80人定員で60人を下回る)が2年続いた場合に、統合か1学級校の分校として存続させるとあった。また、1学級校の取扱いについては、40人の半分(20人)を下回る状況が2年続くかまたは、地元からの進学率が5割以下となる状況が2年続く場合に、募集停止について検討するとしていた。
- ・統合や募集停止の基準については、再編計画とともに、その基準をどのようにするか等、地域の意見を聞きながら検討していきたい。
- ・なお、現在、高校入試の志願者が1学級定員の40人を超える欠員がある場合については、学級減の規則該当校として、学級減を検討することとしている。

【釜石市 参加者】

- ・釜石市には以前、普通科高校2校、専門学科高校2校の計4校が設置されていた。今後、現在市内になる2つの高校統合し1校にする考えはあるのか。

(次頁に続く)

- ・今後の中学校卒業予定者の推移を見ると、将来的には5学級程度の高校があれば十分になる。釜石高校は、進学に力を入れている。仮に専門学科と統合した場合、学力の差等、様々な問題が出てくると思う。
- ・通学で利用するバスについて、仮設住宅の関係もあり鶴住居方面から通学する生徒が増えている。下校時に利用するバスについては、県交通の便数が減り、迎えるための保護者の負担が大きくなったと聞く。また、現在住んでいる地域では、利用者が少ないということで県交通の路線がなくなった。「にこにこバス（コミュニティーバス）」は運行されているが、それでは、朝学習の時間に間に合わない。
- ・再編となった時に、通学手段を検討するとあるが、どのような具体策があるのか伺いたい。

【 県教委 】

- ・統合については、統合するかどうかも含め、それを検討するために地域の意見を伺っているところである。生徒の減少をふまえ、釜石高校であれば進学体制をとるための学校規模はどうあればいいのか、また、釜石商工高校であれば、専門高校としての特長を生かしていくためにはどうあるべきか、といったこと等も検討していきたい。
- ・今回の意見交換会は、再編計画案の策定に向けて、意見を伺うため開催しているものであり、様々な意見を伺いながら具体的な検討をしていきたい。
- ・通学への支援について、統合を実施した場合の激変緩和策として、現在、久慈市山形地区と田野畑村で、バスの運行を自治体や保護者団体が主体となり運行しており、県が補助している。今回の再編に関わる通学支援策については、現状の県の補助のほか、他の道県の通学への補助、奨学金等の状況も参考としながら、望ましい通学手段の確保策を検討していく。
- ・具体の支援策については、統合に伴う激変緩和ということで、地域による通学の状況、予算の関係等、様々な状況を確認しながら検討していきたい。
- ・なお、経済的な支援策としては、被災された方への学びの基金等を実施しているところである。

【 県教委 】

- ・普通科と専門学科が統合となった場合の学力の保障について、県内には千厩高校等、普通科と専門学科が一緒になった高校がある。それぞれ教育課程が違うので、学ぶ内容は違ってくる。仮に統合した場合のメリットとしては、一定数の生徒を維持できることによる部活動の取り組みが可能なこと、教員配置においても一定数が維持されるので、幅広い教育課程を編成することができること等が考えられる。

【遠野市 参加者】

- ・パブリック・コメントの意見として、小規模校への配慮、1学級定員の見直しがあったということだが、それ以外の意見としてどういうものがあったのか。
- ・説明では小規模校を統合廃止するのではなく、小規模校への配慮、1学級定員の見直しを検討するというので、存続させる方向と受け止めた。是非、そうしていただきたい。
- ・地域検討会議を3回、意見交換会を2回程度開催するというのだが、遠野市では開催を予定していないのか。もし、まだ、予定されていないのであれば、遠野市でも開催していただきたい。
- ・廃校となった遠野高校情報ビジネス校の空き校舎について、地域でも活用策がなくそのままになっている。活用について県教委としても検討していただきたい。

(次頁に続く)

【 県教委 】

- ・パブリック・コメントで多かった意見としては、小規模校の維持・存続、1学級定員の見直し、特別な支援を要する生徒への対応等があった。それ以外にも高校教育の在り方、学科の在り方等への様々な意見があった。
- ・今後開催する意見交換会の場所については現在調整中であり、遠野市での開催についても要望として伺いたい。
- ・廃校となった校舎の利活用については、貴重な施設でもあり、管理する県教委としても、地域の意見を聞きながら活用の仕方を検討していかなければならないと考えている。ただ現状として、地域に確認したうえで、活用されていない状況にあることを御理解いただきたい。

【 県教委 】

- ・生徒数が減っていく中で、今後の在り方の意見として、釜石高校と釜石商工高校の統合もあるのかという質問であった。遠野市で考えれば、遠野高校と遠野緑峰高校の統合ということにもなるが、生徒が減ればそれも選択肢の1つとしてある。
- ・学校を存続させるとなった場合、それぞれ単独で存続させるという方法もあるし、あるいは統合して学校規模をある程度維持し、生徒の教育活動を充実させるという方法もある。それらについて、皆様の意見をお聞きして検討してまいりたいと考えているが、どのような御意見をお持ちか伺いたい。

【遠野市 参加者】

- ・本日（6月16日）の地域検討会議でも意見としてあったように、遠野市の二つの高校については、それぞれ特長ある活動を行っている。遠野緑峰高校については、ポップ和紙の研究で活躍している。また、高文連の写真部門でも成果をあげている。それぞれが特色ある活動をしているので、単独での存続をお願いしたい。

【釜石市 参加者】

- ・釜石高校は進学校として、更に上を目指し頑張っている。専門学科高校とは、授業時間や年間を通しての活動、部活動等、様々な点で違いがあり統合には課題が多いのではないかと。釜石商工高校は郷土芸能等の特色ある活動を行っている。地域に中学生が選択できる学校があった方がいいのではないかと。
- ・統合することのメリットはあると思うが、地域の中学生にとって選択する高校が1つとなると、もし受検で不合格となったときに、地区外の私立高校に行かなければならない。市内に4校あった時代は、地区外への転出も少なかったと思う。

【 県教委 】

- ・公立高校の受検については、推薦入試、一般入試、再募集と3回の受検機会がある。一般入試で仮に不合格となったとしても、受検機会は設けていることを御理解いただきたい。
- ・仮に統合したとしても、学科が違うので、統合によるメリット、デメリットはそれぞれあると思う。

【釜石市 参加者】

- ・平成28年度入試から、定時制について成人枠を導入するとあるが、釜石高校定時制についても導入されるのか。

【 県教委 】

- ・学びの機会の拡大ということから、県内の公立定時制全てにおいて平成28年度入試から成人枠を導入することとなる。
(次頁に続く)

- ・想定しているのは、高校を中途退学した方、高校に入学していない方であるが、一般に行われる5教科の試験と面接ではなく、小論文・面接等、各高校で考えた試験内容で入試を行うこととしている。

【大槌町 参加者】

- ・大槌町では、高校生の子どもがいる家庭で、両親が地元で仕事に就くことができず、地区外に転出している状況がある。それをもって、生徒数が少なく将来の見通しがないと考えないでいただきたい。